

第420回番組審議会

1. 開催日時 平成19年4月17日(火) 午後1時30分～
2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室
3. 委員の出席 委員総数 13名
出席委員 11名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	副委員長	橋田 純一
	委員	和田 利彦
	委員	梅村 俊男
	委員	高橋 三男
	委員	帷子 利明
	委員	千葉 則茂
	委員	佐藤 晴久
	委員	早瀬 藤二
	委員	増川 博之
	委員	上野 克幸

欠席委員	委員	西郷 喜代子
	委員	嶋村 正

社側出席者	中野 士朗 (代表取締役会長)
	矢後 勝洋 (代表取締役社長)
	新沼 栄喜 (取締役副社長)
	石井 修平 (専務取締役)
	阿部 孝夫 (常務取締役)
	千葉 正範 (営業局長)
	淵沢 行則 (制作局長)
	鈴木 直志 (報道局専任局長)

事務局	青山 尚之 (編成局長)
	高橋なおみ (編成局編成部主任)

4. 議 題

1. ザ・ナビゲーター 4 「平泉世界遺産登録への途」
3月24日（土）午後2時～2時55分放送
2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・視聴者からのご意見

6. 議事の概要

社側説明

番組審議会の議題「ザ・ナビゲーター 4～平泉世界遺産登録への途」は
3月24日（土）午後2時～2時55分放送で放送いたしました。
ご意見をお願い致します。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員側意見

- ・「ザ・ナビゲーター」の中では、硬いイメージのテーマだったのではないかと。世界遺産登録の先に何があるのか、何をしなければならぬのかを考えさせられて、平泉を勉強するのにいい機会だったのではないかと。
- ・世界遺産登録までのステップ、浄土思想については、もっと詳しく取り上げてもらえば良かった。
- ・一方では、端的によくまとめられていたという意見もありました。
- ・世界遺産登録は、主役は地元の住人、保存は継続しなければならないということなので、地元の方々がどう考え、どう見ているのかを掘り下げてもらいたかった。その内容を番組の初めに構成して、他地区の事例を紹介してもよかったですのではないかと。
- ・一方では、地元の意見を取り上げすぎると平泉のマイナス面がでてくるのではないかとという意見もありました。
- ・9つの遺跡の場所、アクセスを詳しく紹介してもらえば、参考になったのではないかと。
- ・慶州のところで、観光客が増加したということでグラフを使用していたが、グラフは途中から減少していたので疑問点が残る。グラフの使い方は注意が必要だと思う。
- ・平泉町長のインタビューのバックの置物が、サッカーボールや壺など、番組内容とそぐわないものだった。配慮が必要ではないかと。
- ・観光中心ではなくて、保存が大事だという提言があつて、番組としては非常に良かったのではないかと。

7. 審議内容

別載のとおり

8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」
(平成19年4月24日(火)午前11時50分～11時57分放送)で、審議の概要を放送。
- ・ 支社・支局に議事録を設置
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

〈議事の内容〉

事務局 番組審議会の議題「ザ・ナビゲーター 4～平泉世界遺産登録への途」は3月24日（土）午後2時～2時55分放送で放送いたしました。ご意見をお願い致します。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員長 それでは、ご意見をお願いします。

委員 平泉世界遺産登録を漠然と受け止めていたところ、ちょうど勉強するいい機会になりました。全体が良く出来ていましたが、特に象徴的な建物や島や山地を対象にした世界遺産と違って、コアが9つあり「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」ということで、理解し難い遺産を番組で上手く紹介していると感じました。韓国の慶州などと比較しながら平泉の世界遺産登録まで、そして登録後の住民の大変さやうれしさなどを上手く浮き彫りにされていたと感じました。世界遺産登録までのステップの図が出てきましたが、「暫定リストへの登載」の意味や、登載と登録の関係など、もう少し解説を加えた方が良かったと思います。浄土思想についても、研究家の先生から少し話しがありましたが、藤原の清衡の思いと重ねて詳しく説明してもらおうと良かったと思います。平泉と関係市町の取り組みについて、ソフト面については結構紹介されていましたが、食や商店街における町の魅力づくりや、統一感のある町の形成、交通渋滞の対応などハード面の取り組みにも切り込んで欲しいと思いました。日本全体が利便性を優先するあまり自然を壊してきた代償は非常に大きいと痛感させられました。

委員 今までのナビゲーターと比べて、若干硬いテーマと感じました。そのテーマだけに、説明が多かったと思いますが、5部構成で広がりのある内容になったと思いました。前段のほうで、専門家の「浄土思想とは憲法9条の精神」、大学教授の「指定ということは浄土の景観の保護と復元が課せられていくということ」という指摘が、端的で分かりやすかったと思います。残念だったのが、平泉の住民がどう思っているのか、どう動いているのか、何を期待し、何を不安に思っているのかを掘り下げて貰いたかった。その後に各地の事例を辿って行った方が分かりやすかったのではないかと思います。平泉の具体例として、看板撤去が始まっているとか、鉄塔問題が指摘されているなど紹介がありましたが、看板はどういう意図で撤去が始まったのか、鉄塔問題はどのような解決策があるのかまで紹介してもらおうと良かったのではないかと思います。

委員 全体として非常に力作である印象を受けました。世界遺産がどうゆうものか理解するのに助けになりました。鉄塔問題などどうするのかと聞いていましたが、そ

れに対して「世界遺産は指定されて終わりではない。未来に引き継ぐ地球の宝物、世界の認めた遺産として保存していくんだ。」という教授の考え方が、理解に助けになりました。また、830の世界遺産の中から、慶州や白川郷など、参考になる例を選び出したと思います。要望としては、9つの遺跡がどういう位置にあるのか、もう少し詳しい地図で示して欲しかったことと、コアゾーンとバッファゾーンの位置関係が示されれば良かったと思います。慶州の事例で観光客が800万人から900万人になったというグラフを紹介していたが、詳しく見ると1998年までは増えているが、その後800万人前後に下がっている。何故減ってしまっているのか疑問が生じました。グラフを示すなら、その辺の解説が欲しかったし、その解説が必要ないならば、逆にグラフを示さないほうが説得力があったのではないかと思います。

委員 考えさせられる、余韻が残る番組だったと思います。登録をきっかけとして、その先に何を見出すか、何を見据えるか。遺産登録をすることが目的ではなくて、それから何を始めるかということ非常に考えさせられました。観光面重視の内容でしたが、むしろ平泉に藤原文化が開いた真髄は何かを伝えて欲しかった。浄土思想とありましたが、何故平泉に開こうとしたのか、京都の文化が順次北上して平泉に伝わったのではなく、飛び地のように平泉があるのは何故か。真髄を考えた上でないと、観光客が増えた、減った、経済効果があったなどになり、未来に遺産を残すことになるのだろうかと思いました。白川郷の例で、世界遺産登録をされたから守られたという面があるということは参考になりましたが、その一方で登録後に観光客を呼ぶためには、俗っぽいところが出るが、その調整をどうするかということも考えさせられました。観光や人寄せのための登録であってはいけないのではないか、誇りや責任、平泉文化に対する理解や共鳴というところをどうするのか、といったことまで触れると番組に深みが加わったと思います。

委員 内容が濃く、納得するところが多かった。世界遺産は、登録後もずっとつづくということが分かりました。コメントを頂いた方々が、とてもストレートに表現していて、分かりやすかった。先輩格の事例も、平泉の課題を浮き彫りにするには丁度いいところだったと思います。石見銀山のところで、価値を説明するのが難しいとありましたが、平泉もそういう部分が多いと思います。どういう価値を持って平泉を世界遺産登録に申請しているかを、もっと詳しく説明して欲しかったと思います。平泉の課題を浮き彫りにしていくには、良い番組でした。

委員 歴史や規模から見て、これまで何故平泉が世界遺産登録をしなかったのか疑問に思いました。登録までのプロセスをもう少し詳しく説明して貰えば良かったと思います。取材テーマは、非常に時宜を得たもので、番組としての問題提起もされていましたが、全体的には、ごった煮の印象を受けました。平泉の世界遺産登録

については、ポピュラーな話題で、各マスコミが取り上げてきたので、この番組が独自の視点を求めすぎた結果ではないでしょうか。例えば取材場所も次々に変わりめぐるましい感じがしました。他の地区の例では、それぞれの主題や意図が、平泉の話にストレートに結びつくものではなかったのではないかと思います。

「何故平泉を世界に遺産として残さなければいけないのか」という視点と、「登録の事実を観光客誘致から地域活性化につなげる」という視点と、きっちり分けて伝えて貰うともう少し整理された印象をもったと思います。観光の話ですが、平泉のような知名度の高い観光地において、観光客増加の一時的な誘引にはなるとは思いますが、長期間持続していくのか疑問に思いました。地元の方から話を聞くと、必ずしも歓迎しているわけではない。世俗化してしまう部分、遺跡の荒廃、観光客のマナーなどを危惧している。大学教授の「復元、保存の義務が永遠に課せられていく非常に大変なことだ。」というのが本当の姿ではないかと思います。映像的には、平泉は四季折々の映像が織り込まれてきれいでしたが、慶州や石見銀山は、雪が舞って荒涼とした印象だったので、もう少し明るい季節の映像も挿入してもらえば、それぞれの宣伝になったと思います。

委員 世界遺産登録とは、観光地を宣伝して観光客を増やすこととと思っていましたが、番組を観て認識が変わった人がかなりいたのではないかと思います。一番印象的だったのは、インタビューをはじめ関係者のコメントがたくさん紹介されていたことで、観るより聞いて理解しなければいけない番組で、ちゃんと聞いていなければなかなか理解し難い番組でした。先駆者の事例の中で「地元の誇りと保存のための住民協力」というコメントで、主役は観光客ではなく住民だということを改めて感じました。また、「長期間の景観整備」というコメントでは、将来的に開発の制限があっても、登録しますか？という問いかけにも聞こえました。最後のナレーションが綺麗にまとめられていましたが、もう少し突っ込んだ形で「登録はゴールじゃなくて、遺産を後世に伝えなければいけない国際的な責務」ということをはっきり明示されると、より理解が深まったのではないのでしょうか。

委員 番組構成としてはきっちり出来ていたと思います。平泉のすすむ途を考えると提言を、視聴者はどの位受け取れたのか疑問が残りました。先行登録地の慶州の紹介は、遺跡そのものがなくて、跡地だけが続くところで、一方平泉は、庭園や緑、自然の豊かさやきれいさから見るとはるかに平泉の方がいいのかなあと感じました。登録＝観光＝経済効果と考えてしまいますが、番組では本当にそれでいいのかと提言していると思いました。地元県民として最も大切な「浄土思想を基調とする文化的景観」の考え方が、もう少しきっちりと伝えてもらった方が良かったのではないかと思います。訪ねてみたい人のために、詳しいアクセスを案内して欲しかった。

委員 取材・説明、全体を通して丁寧に作られていて、平泉の文化や登録について詳しい人以外には、非常にためになるいい番組だったと思います。先行登録の白川郷や慶州の紹介の時間が長くなると、平泉から離れていく印象があったので、説明の仕方の工夫が必要だと思いました。最初に見た時は、地元住民の期不安や問題点を先に説明してから番組を進めてもらおうと良かったかと思いましたが、何回か見ていると、問題点を出すと平泉のマイナスイメージになったかもしれないと思い、編集に苦労したのではないかと感じました。

委員 広範な内容を手際よくまとめていた。この番組では、平泉の文化遺産の価値を考える素材を提供しようということかと思いました。その方法として、白川郷、慶州、石見銀山を取り上げて、登録前の問題や、登録後の問題などが出てきて、生活と保存の問題を考えていこうということだと思いました。関係者のコメントを通じて、局の提言を、視聴者に伝えるという手法で作られた番組ではないか。そういう点では、ほぼ目的を達した番組ではないかと思います。世界遺産としての登録基準が、制度が始まって以来変わってきている。特に指定する側の考えに合わせていく作業が、ここ1~2年急ピッチに進められていて、地元、東北の研究者が思いもよらないような「浄土思想」になってきた。今までは建物や工芸品などに着目した指定に重きを置いてきたが、最近では、事跡、精神的なものを含めた登録を考えていく必要があるという風に変わってきているので、専門家もそれに副ったコメントを考えてきている。番組としてその変化をどの程度皆さんに知って貰うかということも考えていかなければならないと思います。機会を見て、二の矢、三の矢と撃って欲しい。

委員長 まとめますと

- ・「ザ・ナビゲーター」の中では、硬いイメージのテーマだったのではないか。世界遺産登録の先に何があるのか、何をしなければならないのかを考えさせられて、平泉を勉強するのにいい機会だったのではないか。
- ・世界遺産登録までのステップ、浄土思想については、もっと詳しく取り上げてもらえば良かった。
- ・一方では、端的によくまとめられていたという意見もありました。
- ・世界遺産登録は、主役は地元の住人、保存は継続しなければならないということなので、地元の方々がどう考え、どう見ているのかを掘り下げてもらいたかった。その内容を番組の初めに構成して、他地区の事例を紹介しても良かったのではないか。
- ・一方では、地元の意見を取り上げすぎると平泉のマイナス面がでてくるのではないかという意見もありました。
- ・9つの遺跡の場所、アクセスを詳しく紹介してもらえば、参考になったのではないか。

- ・慶州のところで、観光客が増加したということでグラフを使用していたが、グラフは途中から減少していたので疑問点が残る。グラフの使い方は注意が必要だと思う。
- ・平泉町長のインタビューのバックの置物が、サッカーボールや壺など、番組内容とそぐわないものだった。配慮が必要ではないか。
- ・観光中心ではなくて、保存が大事だという提言があつて、番組としては非常に良かったのではないか。

社 側 この番組は、平泉の世界遺産が来年の正式登録に向かって進んでおりますのでそこに至るまでのプロセスと、課題を明らかにしつつ、登録した場合にどういうことが変わるのか、地域の活性化に役立っていくかを明らかにするために制作しました。

世界遺産登録までのプロセスがとても煩雑で、何段階にも分かれているため、ご指摘いただいたとおり、少し説明調になったという反省はあります。

慶州のグラフについては、1970年代から慶州は観光に力を入れていて、かなりの入れ込み客がありました。それが徐々に少なくなってきたので、世界遺産登録によって、これを起爆剤にして100万人～200万人増やしました。

しかし長期的計画の過程にありますので、やはり最終的には右肩下がりにするという実情です。ほとんどの世界遺産登録地も、観光客を登録後数年増やす起爆剤にはなりますが、それによって永続的に増えるものではない。そこまでの説明が出来なかったので、図解（グラフ）だけになりました。

世界遺産登録ということは、文化的・精神的なものを皆さんに観てもらおうということの他に、そこに来るとくさんの人々を満足させて帰すということがあります。慶州はそこら辺の使い分けがはっきりとしていて、寺社・遺跡は保存して、観光地は大規模開発して集客するという2つの面を持っています。そういうところを観ていただきたくて取り上げました。

他の世界遺産登録の事例を取り上げて、平泉の問題点を浮き彫りにしようという意図だったのですが、必ずしも平泉にフィードバックしていないという側面がありました。それは、季節的なこともありますが、現地の動きが少なく、あまり良い取材が出来なかったのが実情です。

世界遺産登録は、ゴールではなくて、スタートでありステップでありますので、色んな視点からさらに番組を作って行きたいと思っています。

委員長 他に何かありますでしょうか。では、事務局にお返しします。

社 側 それでは、これで4月度番組審議会を終了させていただきます。